社会課題を、超えていく。

UR都市機構

令和８年（2026）11月４日

独立行政法人 都市再生機構
東日本都市再生本部
Sustainable Food Asia株式会社
株式会社アイクリエイト
ローカルフードサイクリング株式会社

＼ 新橋・虎ノ門のまちづくりもURであ――る。／

食品廃棄物を地域資源へ、まちぐるみで育む食と資源の地域循環づくり

新橋・虎ノ門エリアで資源循環システム構築に向けた実証実験を開始

独立行政法人都市再生機構（以下、ＵＲ都市機構）は、新虎イノベーションイニシアティブ「Foodα（フーダ）」の取り組みの一環として、Sustainable Food Asia株式会社、株式会社アイクリエイトおよびローカルフードサイクリング株式会社とともに新橋・虎ノ門エリアで資源循環システムの構築に向けた実証実験を開始します。

本実証では、新橋・虎ノ門エリアで発生する食品廃棄物を堆肥化し、その堆肥や落ち葉などの地域資源を活用して農作物を栽培・収穫・消費するまでの資源循環をエリア内で実現することを目指します。あわせて、都市部における小規模な資源循環サイクルの有効性や、屋上・軒先などの限られた都市空間を活用した運営手法等について検証します。

また、まちなかに設置したプランターでハーブ等を栽培することで、地域の人々に資源循環の取り組みを身近に感じてもらい、誰もが気軽に参加できる仕組みづくりを進めます。

Foodαでは、こうした取り組みを通じて、「未来のおいしいが生まれるまち」の実現を目指しています。今後も地球環境改善や資源循環などの社会課題に挑戦するスタートアップ企業の技術・サービスの実証・実装を支援し、まちなかで資源循環が生まれる環境づくりに取り組んでまいります。



堆肥化に使用するLFCコンポスト※



プランター設置イメージ

※食品廃棄物を自然の微生物の力で堆肥に変えるバッグ型のコンポスト

【お問い合わせ先】
プレスリリース全体について
ＵＲ都市機構 東日本都市再生本部 総務部総務課（広報担当） 電話：03-5323-0625
キックオフイベントについて
ＵＲ都市機構 東日本都市再生本部 都心業務部事業推進第３課 電話：03-5200-8627

＜キックオフイベントの概要＞

地域における資源循環を身近な取り組みとして捉え、関心を深めていただく機会として、近隣のワーカーや飲食店向けのキックオフイベントを開催いたします。

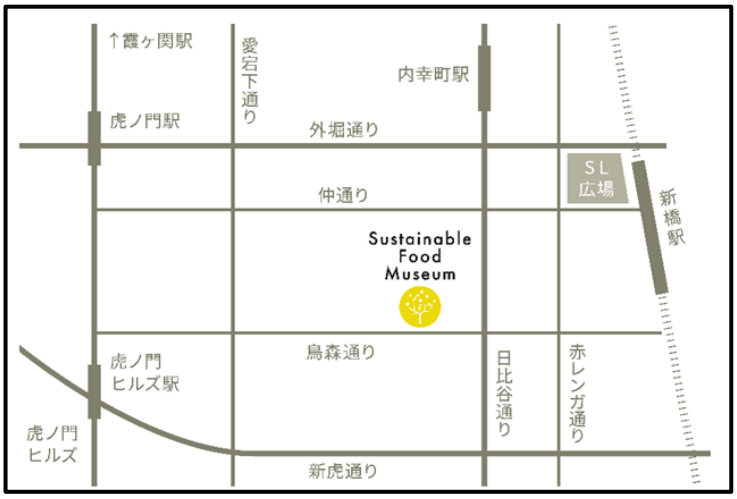
日時： 2026 年 11 月 25 日（水）15：00～16：30（予定）

場所： Sustainable Food Museum（以下位置図参照）

（東京都港区西新橋 1 丁目 17 番 8 号 須田ビル 1 階）

内容：企画趣旨説明、ハーブ等の苗植え体験、今後の予定等

申し込み先：東日本都市再生本部　都心業務部事業推進第３課　電話 03-5200-8627



位置図

＜参考：「Foodα」について＞

ＵＲ都市機構、株式会社リバネス、Sustainable Food Asia 株式会社、株式会社 UnlocX および日鉄興和不動産株式会社の５者が、東京都港区の新虎エリアにおいて、食を起点とした社会課題解決に挑戦する多様なプレイヤーの集積・交流促進を図り、イノベーション創出をまちぐるみで育む枠組みです。

スタートアップ企業向け支援として、既存ビルをリノベーションし、サステナブルな食をテーマに、企業や個人、地域が交わり新たな価値を創造する、まちに開かれたショーケース「Sustainable Food Museum」、サステナブルフードの開発と普及を目的としたキッチン付きのシェアオフィス施設「Sustainable Food Lab」などを設置しています。

【Foodαホームページ】

https://fooda.tokyo

ＵＲ都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955 年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害対応支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

https://www.ur-net.go.jp/

社会課題を、超えていく。 UR都市機構 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

UR都市機構は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。